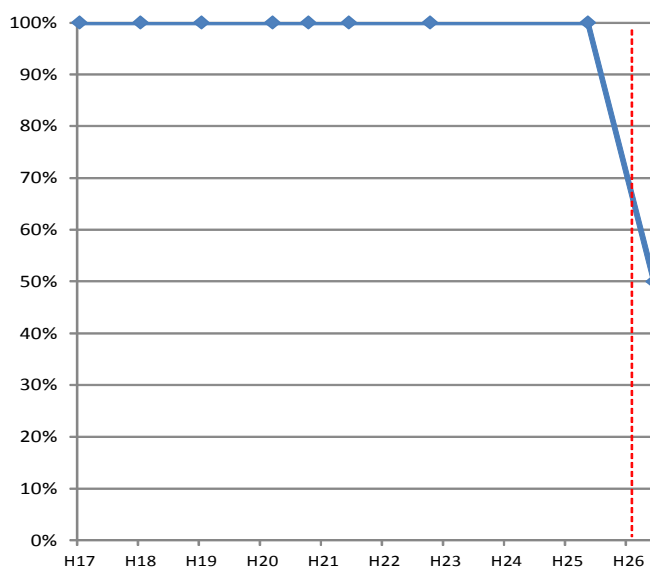


樹種名	コブシ		
科 目	モクレン科		
学 名	<i>Magnolia praecocissima</i>		
分 布	九州、本州、北海道および国外では済州島に分布する。		
樹木特性	半陰樹であり、低地から山地にかけて生息するが、谷沿いの斜面に多い。 果実は集合果であり、にぎりこぶし状のデコボコがある。この果実の形状がコブシの名前の由来である。		
用 途	公園樹、建築・家具・器具材として利用。		
植栽本数/面積 (植栽密度)	30 本 (他樹種との混植)		
特 徴	【樹 形】 落葉高木で高さは 18m、幹の直径は概ね 60cm に達する。3 月から 5 月にかけて、枝先に直径 6~10cm の花を咲かせる。 花は純白で、基部は桃色を帯びる。花弁は 6 枚。枝は太いが折れやすい。枝を折ると、芳香があり、樹皮は煎じて茶の代わりや風邪薬として飲まれる。 果実は 5~10cm で、袋菓が結合して出来ており、所々に瘤が隆起した長橢円形の形状を成している。また、幹が多少曲がっており、葉も倒卵形ですこしざらつき、花期も違うのでタムシバとは比較的容易に区別できる。 世界的に花木として有名で、またほかのモクレン属の接木(つぎき)の台木として利用される。日本では漢方の辛夷(しんい)の代用品として使われる。		
試験地での様子	 		
被 害	野兎・鹿の被害は特に無かった。		

コブシ 現存率



【現存率】

植栽後の自然枯死は無いが、枝張りが良好なことから植栽木同士の被圧が見られるため、平成 23 年度に本数調整伐（5 本）を実施した。

本数調整伐を実施した以外の調査木の現存率は 100 %（H 25.6 時点）である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 50.0%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

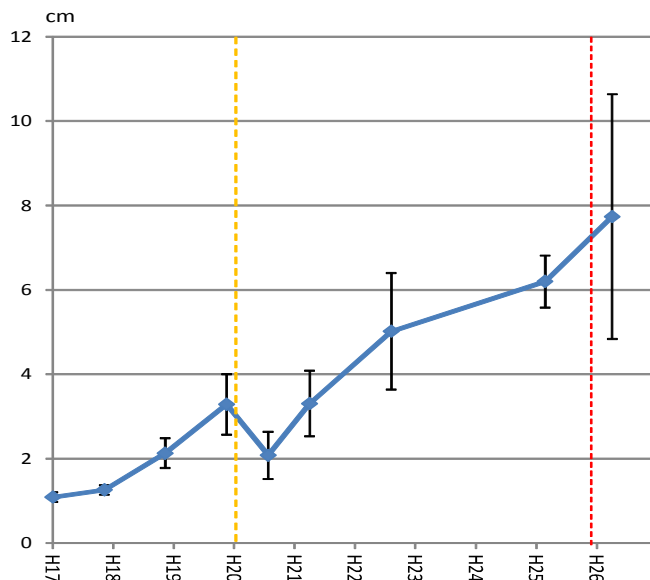
成長は良好である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 7.74 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

コブシ 根元・胸高直径



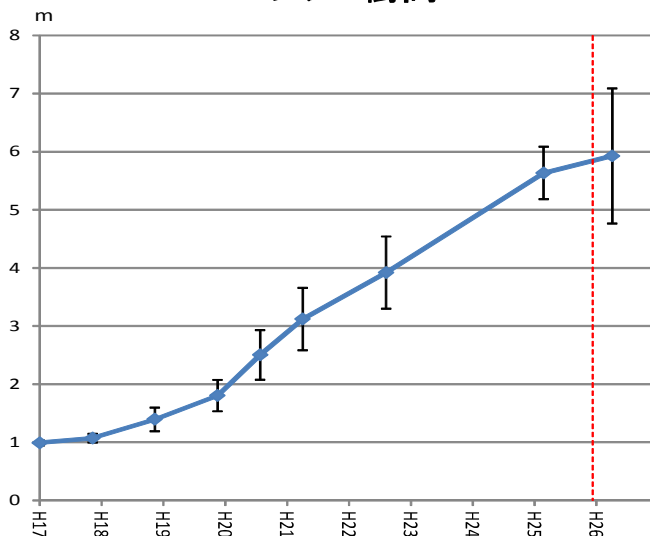
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 5.93mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

コブシ 樹高



《プチ情報》

「コブシ」がそのまま英名・学名になっている。日本では「辛夷」という漢字を当てて「コブシ」と読むが、中国ではこの言葉は木蓮を指す。北海道のコブシは「キタコブシ」と呼ばれ区分する。遠くより見ると桜に似ていることから、花を咲かせる季節が桜より早いことから、ヒキザクラ、ヤチザクラ、シキザクラなどと呼ばれる。これらの呼称は北海道、松前地方を中心に使われる。アイヌ地方では「オマウクシニ」「オプケニ」と呼ばれる。それぞれ、アイヌの言葉で、「良い匂いを出す木」「放屁する木」という意味をもつ。